■酒井忠挙　　前橋藩主。徳川家親族の名門ながら，将軍綱吉の登場で挫折，再び，政治の表舞台に立とうと奮闘した。
さかいただたか
市中諸法度・1648＝　　名門譜代雅楽頭家酒井忠清の嫡男に生まれる。母は松平定綱の娘鶴姫。最初の諱は忠明。

徳川家光没・1651＝ 3歳：

明暦の大火・1657＝ 9歳：

・・・・・・1664＝16歳：将軍家綱のもとで元服し，今後，晴儀御奏者と御年男を勤めることを命じられる。
諸宗寺院法度1665＝17歳：四品(従四位下)となる。
酒井忠清大老1666＝18歳：_父忠清が大老になると，

・・・・・・1670＝22歳：**_早くも，官職は侍従となり，老中の上座となるなど，幕府内で高い位置にあったが，**

・・・・・・1674＝26歳：この年，越後国高田藩主松平光長の嫡男綱賢が死去し，越後騒動が起こる。
談林派俳諧・1675**＝27歳：**

徳川綱吉将軍1680＝32歳：**_将軍家綱が死去し，五代将軍に綱吉が就任。父忠清が，老中や若年寄らとともに招かれた紀伊藩主邸で，緊張のあまり痰がつかえ，その後，病気を理由に大老職を解任され，同時に，越後騒動再審が始まる。**
天下一禁止・1681＝33歳：**_父忠清が隠居して当主となり，十五万石のうち十三万石を継承してまもなく父忠清は死去。越後騒動の御前公事が開かれ，同じく父親の責任を負わされた久世重之とともに，逼塞処分を受け，大老となった堀田正俊が嫡男正仲とともに，雅楽頭家の役儀を継承，その後，直接関与無しと，久世とともに赦免される。**
好色一代男・1682＝34歳：***処罰前の黒書院溜という最高席から格下げされた，雁間詰衆上座となり，**
堀田正俊暗殺1684**＝36歳：**
出世景清初演1685＝37歳：久世重之が，奏者番に再任される。
・・・・・・1686＝38歳：松平信庸夫人となっていた妹彦姫が死去。
生類憐令始・1687＝39歳：**_初めて幕府の役職の奏者番兼寺社奉行に任命され，官職が侍従で，新人ながら別格の扱いを受け，部下にも恵まれ，優れた裁きを見せ，綱紀粛正策にあって，寺社奉行仲間3人が更迭されるも，勤めていたが，**
・・・・・・1689＝41歳：**_舌に腫物ができて言語が不自由となったため，致仕し，雁間詰に戻る。**
湯島聖堂・・1690＝42歳：**_頬の腫れものがひどくなり，祝儀の登城もできないほどになり，菩提寺の隠居の勧めで，林大学頭とも相談し，忠挙と改名。嫡男忠匡も忠貞と改名。**
別子銅山始・1691＝43歳：**_腫れものが裂け，飲食も困難になるが，治療と薬の服用でようやく完治。**
世間胸算用・1692＝44歳：藩校〔好古堂〕を開いて，佐藤直方を迎えるなど，好学の大名としても知られ，
奥の細道・・1693**＝45歳：**
芭蕉+師宣没 1694＝46歳：娘婿(高或・高通の父)京極高豊が死去。
生類憐令頂点1695＝47歳：
重秀勘定奉行1696＝48歳：***黒書院溜での御目見えが命じられ，処罰前の席次に復帰。**
・・・・・・1697＝49歳：嫡男忠貞の正室梅姫が死去すると，一族の長として，その兄小笠原長胤のかねてからのあきれた行状による御家騒動の解決に乗り出す。**_江戸城での講釈と能拝見では，松平正信と同等の扱いとなり，快哉。さらに幸運なことに，柳沢吉保から，槌姫(忠挙四女)を嫡男吉里の正室にとの申し込みがあり，綱吉の柳沢邸御成の際，縁組が許可される。**
吉保大老格・1698＝50歳：その結果，小笠原長胤が，所領没収の上，一族の小笠原忠雄に御預けとなる。**_久しぶりに幕府の役職たる大留守居に任命され，名を"河内守"から"雅楽頭"への改名と独礼を許され，**
・・・・・・1699＝51歳：台風被害に際し，柳沢吉保に宛てて，人々の負担を減らす方策を提言する書状を送り，老中阿部正武の屋敷を訪ねた際，大留守居職のあり方について大見得を切るなど**_張り切るが，形ばかりの役職で，**
・・・・・・1700＝52歳：**_体調不良のため大留守居を辞し，溜詰格，松平正信・松平頼常並となる。以後再び役職につかず，雅楽頭家の家格復活を嫡男忠貞に賭け，**
松の廊下事件1701＝53歳：槌姫が痘瘡に罹るも全快。阿部正武に希望して**_忠貞の四品(従四位下)叙位を得，忠相と改名。**
赤穂浪士討入1702**＝54歳：**
赤穂浪士切腹1703＝55歳：江戸大地震の際には，自ら希望して，火之番を務める。**_ようやく適齢になった柳沢吉里と槌姫(頼姫と改名)の婚儀が決定するも，弟酒井忠寛が死去したため，翌年に延期。**
団十郎刺殺・1704＝56歳：西尾森之助が忠寛の家督を相続し，酒井忠告となり，牧野英成の娘との縁組の許可が幕府から正式に下りる。**_奏者番久世重之が寺社奉行を兼任すると，扱いの差別に耐えられず，柳沢吉保に隠居希望を伝える。**
御蔭参流行・1705＝57歳：久世重之が若年寄になる。**_将軍綱吉と家宣の昇進のための京都への上使を勤め，少将に任じられる。**
富士宝永噴火1707＝59歳：この年，酒井家の掛人田川城之助が，真野正命の養子となる。**_新田二万石が加えられ，十五万石に復帰。隠居し忠相が家督を相続。老中秋元喬知に忠相の侍従昇進を申し入れるが，**
ｼﾄﾞｯﾁ拘束・ 1708＝60歳：**_忠相が急死したため，家督を相続した嫡孫親愛に期待をかけるが，**
徳川綱吉没・1709＝61歳：将軍綱吉が死去。酒井家の掛人細川主馬が谷田部藩主細川興栄の養子となる。長く詩を交換してきた大名小笠原真方(小倉藩主の弟)が参勤交代の帰り道，讃岐国小豆島付近で暴風にあって溺死しまい衝撃。
冥途の飛脚・1711**＝63歳：**
乾山陶器店・1712＝64歳：嫡孫親愛に，初めて国元への御暇が出る。
和漢三才図絵1713＝65歳：久世重之が，老中に任命される。
徳川吉宗将軍1716＝68歳：***新将軍吉宗から，かつての綱吉時代の提言を評価され，度々下問されると，率直に意見して政治の助けになるという光栄に，親愛が幼すぎ，自らも病気で新将軍に奉公できないことを苦にし，酒井外記を親愛の養子とし，親本と改名させ，以後も正月に登城して吉宗に拝謁するが，**
御蔭参流行・1718＝70歳：**_耳が遠くなり，起居も思うようにいかなくなって，正月の拝賀参上を止める決心をし，林大学頭に伝えると，それを聞いた将軍吉宗から，'なお色々聞きたいことがあるから，春には努めて出仕して欲しい'と林大学頭を通じて言葉があり，今までの不遇が一挙に報われ，**
洋書輸入解禁1720**＝72歳：*親愛を隠居させ，親本に家督を相続させて，没した。**

福留真紀「名門譜代大名・酒井忠挙の奮闘」，